



名鍍会報告

H20. 12

名鍍会の活動について報告します。

平成20年10月23日(木)、
愛知県鍍金工業組合講堂において、26名のご出席いただき、「アメリカ経済の現状と今後」～サブプライム問題、原油高がアメリカの自動車産業をはじめとする製造業に与える影響と日本への余波について～という演題にて株式会社三菱東京UFJ銀行 国



際業務部 名古屋室長 保阪賀津彦氏にご講演いただきました。特に、私たちの仕事にも直結する自動車業界の動向を中心に、アメリカの金融、個人消費、住宅、資源等、興味深い内容を聞くことができました。

講演内容を要約すると、米国経済は2009年から緩やかに持ち直し、本格回復は2010年になるとのことです。今後は、戻し減税や海外景気が下支えとなり、深刻な景気後退は回避できそうとの見通しで、住宅市場の調整や信用収縮の長期化はあるものの、資源価格の安定化や企業部門が比較的堅調に推移するようで、私たちが想像しているよりも、楽観的観測で話されている印象でした。

自動車業界の動向につきましても、消費者マインドや自動車の具体的な販売状況、在庫状況、生産状況など複数の資料を頂き、また、いろいろなデータ解析による将来の予測や、環境規制とその影響などをお話くださいました。

「アメリカは人口が増加している元気な国」人が増えれば住宅は必要、物は買う。今回の経済危機も不動産価格の暴落ではなく、信用バブルの崩壊で、日本のバブル経済との違いを説明されていました。終始笑顔で心強いお話が多くありましたが、公演を聞いている出席者からは、肌で感じる不景気さとのギャップに、質疑応答でもいろいろな議論がされていました。どちらにしても、大きな混乱が無く、実体経済が早く良くなるとういいですね。

A. K記